

# Koo-fu Collection 2020

石井 麻由



〔サイズ〕横170mm × 縦230mm  
ペンダントトップ：  
横30mm × 縦45mm

〔素材〕Koo-fu Pt950・ダイヤモンド  
黒檀・漆

Introduction of works



夜の小道を歩いていてふわりと見えてくる梅の花をイメージした作品。黒い部分は黒檀に輪島漆を塗ったものであり、黒檀は江戸時代から続く木彫職人に彫刻を依頼した。作品を印象付ける重要なパーツであるだけに、ジュエリーのパーツを手掛けるのは初めてだという職人とは綿密にやり取りを重ねた。

海外での生活が長かったからこそ敏感を感じる、日本の伝統美。その美しさをふんだんに盛り込み、宝飾品としての価値だけではなく、山梨の巧みな宝飾加工技術と輪島の伝統が融合した特別な作品となった。

梅の花言葉は高貴、気品。ぴったりと首にフィットするデザインは「強い女性」「戦う女性」をイメージしている。

「今は、身に付けて一緒に戦ってくれる、そんなジュエリーをデザインしていきたい。」と石井は力強い瞳で語った。



ペンダントトップ裏面



## 山梨ジュエリーミュージアム

山梨県甲府市丸の内1-6-1 山梨県防災新館1階

<https://www.pref.yamanashi.jp/yjm/>

開館時間：10:00～17:30(最終入館17:00)

休館日：火曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始、その他、臨時に開館・休館することがあります。

入館料：無料

駐車場：92台 山梨県防災新館地下有料駐車場

(来館者は1時間無料)

デザイナー  
石井 麻由

Vol. 22

2021年1月発行

craftsman jewelry

craftsman jewelry file.22

mayu ishii

2021 January

山梨ジュエリーミュージアム発行

# 物語とともに受け継がれていく、そんなジュエリーをデザインしたい

## 進むべき道

父親の仕事の関係で日本と海外を行き来していた石井は、幼い頃から美術やデザインに興味を持っていた。大学進学を機に本格的にデザインの道に進むことを決意し、イギリスのロンドン芸術大学セントラルセントマーチンズに進学。当初はインテリアデザイナーを目指していたが、在学1年目にジュエリーに出会いその魅力に強く惹かれることとなる。ついには自ら地金を加工してみたいと考え、その後3年間はジュエリーの制作に没頭する。

卒業後2年ほどはGIA G.G. (米国宝石学協会宝石学修了者)の資格取得とCAD等の勉強に打ち込んだ。そして、偶然オンラインで見つけたのが株式会社石友だった。以前から、職人と近い場所で働きたいと考えていた石井にとって、社内に職人を抱え、一貫生産している石友はまさに理想の会社であった。その場ですぐにポートフォリオを送った。就職を決意して応募したのは石友ただ1社のみ。ベストの選択だと思った。

晴れて入社を果たした石井だが、会社に入るまでは山梨県が国内最大の宝飾の集積産地だということは全く知らなかったと苦笑する。

石井がジュエリーに強く惹かれるのには実はもう一つの理由がある。それは卒業直後、大好きな祖母から教えてもらった大切な思い出がきっかけとなっている。祖母とのティータイム。そこで見せてもらった、いくつものジュエリー。そこには高価なファインジュエリーだけではなく、おもちゃのようなものもあった。だが、そのすべてに、祖母にとってかけがえのない思い出がまつまっていた。どこで買い、誰からもらったものなのか、その思い出をうれしそうに話す祖母。その姿を見て、その物語を聞いて、ジュエリーの持つ力に衝撃を受けた。このジュエリーたちは、ただ美しいだけではない。祖母にとって、大切な思い出に彩られた何にも代えがたいものなのだ、と。そして、自分もいつかそのように大切に受け継がれるジュエリーをデザインしたいと強く思った。

## 職人がすぐそばにいるということ

デザイナーとしてはまだまだ駆け出しの石井にとって、ラフデザインの段階で職人に直接相談し、確認できることは非常にありがたく、社内のサンプルが豊富ですぐに試行できることや、その時々にデザイナーの要求に応じてくれる職人がいることは大きなメリットだ。

ただ、海外での生活が長かった石井には、当初海外と日本の消費者の好みの違いを捉えるのが難しく、お客様の好みに答えつつも自分のカラーを出すことには苦心した。今では自信を持って業務に当たるが、それでもジュエリー市場については日々注目し勉強を続けている。



石井 麻由(いしい まゆ)  
デザイナー  
GIA G.G. (米国宝石学協会宝石学修了者)  
パールスペシャリストCPAA (米国養殖真珠協会)  
株式会社 石友  
山梨県甲府市川町アリア106  
Tel:055-220-1711



Vol. 22

## チームの要として

石井の成長を間近で見てきた松葉専務は、その仕事ぶりを評価しつつ、さらなる高みを目指してほしいと期待する。会社内でデザイナーを抱えることの強みとは、その会社のカラーを強く打ち出せるということだ。石井にはお客様の求めるものと自身のセンスのバランスを取りながら、仲間とともに石友のカラーを打ち出してほしい。

今、石井にはまだ経験が浅いが故の迷いがあるかもしれない。しかし、近い将来必ずや、お客様の想いを的確に受け止め、自分の中にある表現力とともに自信をもってデザインする、そんなデザイナーになれる、と松葉専務は言う。その力を引き出すために、チャレンジ精神に応えるために、心おきなくモノづくりができる環境を整え支援していくことが重要だと考えている。

企業はただジュエリーを作っている訳ではない。品質の良いもの、お客様の望むものを作るのは当然のことで、そこに最終的に「人の想い」が重なりあって、唯一無二のジュエリーが出来上がる。そのため、皆、プライドを持って仕事をしている。デザインの力、職人の力、営業の力、これらが互いに刺激し合い、協力し合うことで、山梨ジュエリーの新たな姿が生まれると信じ、今後とも石井にはチームの要の一人として活躍してほしい、と松葉専務は優しいまなざしで語った。



## 受け継がれる物語とともにあるジュエリー

私はやっぱりファインジュエリーが好きなんです。今、様々な経験をさせてもらっているからこそ、自分の得意分野なのだと思えて実感することができています。今後はこの経験を生かしてより自分のセンスの浸みとおったデザインを描いていきたい、と石井は言う。

株式会社石友のデザイナーとして、また、社員としての責任をもってお客様の要望に応えることはもちろん、持つ人にとって唯一無二の、かけがえのない物語とともに受け継がれていくようなジュエリーをデザインし、職人とともに作り上げていく。これからも大きな壁に阻まれることがきっとあるだろう。でも決して恐れず、努力を惜しまずチャレンジし続け、そして必ず乗り越えて見せる。石井の決意は揺るがない。

今、石井の手元にはスタールビーの指輪がある。それは石井が生まれた時の記念として祖母が購入し、プレゼントしてくれたものだ。この指輪にも、受け継がれる物語がある。その喜びを胸に、石井は自らの進むべき道を、山梨ジュエリーの未来を、自らの力で、デザインの力で切り開いていく。